

# 牛流行熱に注意しましょう

与那国町で牛流行熱が発生しました。

令和6年5月下旬～6月に、与那国町の肉用牛繁殖農場で牛流行熱の発生が確認されました。

沖縄県では、防疫措置として、与那国町において流行熱ワクチン接種、衛生害虫対策を実施し、7月現在、発生は減少してきています。

## 牛流行熱とは・・・

- 突然の高熱（41～42℃）、元気食欲不振、脚が腫れて痛がる、流涙や流涎などが2～3日みられます。
- 治療法は、対症療法（解熱剤）
- 通常、2～3日で回復します。
- 死亡は1%以下です。
- ウイルスが牛の体内にいる期間は、約7日です。



高熱  
元気食欲不振

# 原因は？ どうやってうつるの？

- 牛流行熱ウイルスの感染で起きます。
- 牛流行熱ウイルスを持っている蚊やヌカカに吸血されることで感染します。
- 主に、台湾や東南アジアなどの**流行地域から気流によって流されてきた蚊やヌカカが感染源**です。
- **牛同士の接触では、うつりません。**

5mm



ヌカカ

## 対策は？

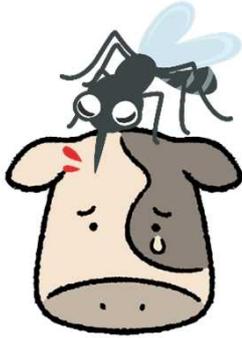
- ワクチンを接種しましょう  
ワクチンを接種することで、発症の確率を下げる他、発症した場合も、症状を軽くすることが出来ます。
- 蚊やヌカカを防除しましょう  
蚊は水田や水たまり、ヌカカは家畜の糞に卵を産みます。畜舎の清掃や**糞への石灰散布**などで消毒、**殺虫剤の散布**、**バイチコール等の忌避剤を牛体に塗布する**等の対策を取りましょう。

八重山家畜保健衛生所

TEL 0980-84-4111 FAX 0980-84-4121

# 牛流行熱の感染様式

1

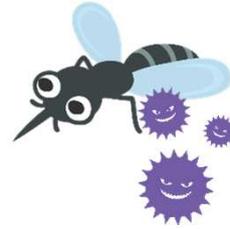


発症牛を蚊・ヌカカが吸血する

ウイルスの増殖には約2週間かかる

2

蚊・ヌカカの体内でウイルスが増殖する



3

ウイルスに感染した蚊・ヌカカが健康牛を吸血

ウイルスが牛の体内にいるのは約7日間

蚊・ヌカカの唾液中のウイルスが、牛の血液内に入り、牛流行熱の症状を起こす

4



感染した牛の発症率は、数%~100%と幅があります。(日本の過去の発生では数~20%)

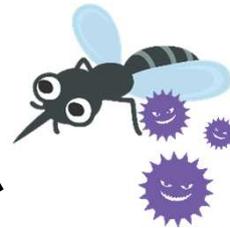


# 牛流行熱への対策



発症牛を蚊・ヌカカが吸血する

蚊・ヌカカの体内でウイルスが増殖する



**吸血昆虫忌避剤でブロック！**

ウイルスが牛の体内で増えるのを予防

蚊・ヌカカの唾液中のウイルスが、牛の血液内に入り、牛流行熱の症状を起~~こ~~す

ウイルスに感染した蚊・ヌカカが健康牛を吸血



**ワクチンで発症を予防！**

